

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2013年 5月 18日）

当日は野田中学校の体育祭にあたり、活動に野田村の方が来てくれるか心配でしたが、晴れ渡った新緑の中、バスはスタートしました。参加者は、伝承遊びの講師を依頼した新岡さん、事務局2名を含む大学生10名、社会人6名と私の計18名でした。



たんぽぽ咲く「道の駅おりつめ」



雄大な自然をバックに集合写真

いつも赴く野田中学校仮設住宅は、上記体育祭で人が集まらない可能性があるため（一大イベントで村を挙げて応援するらしい）、今回は、総合センター1階の和室で「伝承遊びと交流茶話会」を、2階の児童クラブで「学習&遊び交流会」を、それぞれ実施しました。

新岡さんのご指導で、まず、まりつきを手習い。足の下をくぐらせたり、何人かで転がしあったりと、様々な遊び方があるもので、ボランティアは、老若男女問わず、夢中になってゴムボールと戯れていました。途中で、階上から子どもたちを呼んで交流しました。



ボールを撞くボランティアと子供たち



何個持てるか、挑戦！

その他に、竹かえしと紙鉄砲で遊びました。素朴な道具なのに、動きや歌を交えると様々な楽しみ方があるものです。野田村の子どもたちも喜んでいて様子で、まさに温故知新。



竹かえしにはまった(?)男の子たち



野球のピッチャーをイメージして紙鉄砲

昼休みは、海岸、高台移転用造成地と新築の災害公営住宅を視察。決壊した防潮堤、更地のままの沿岸と、遅まきながら復興が進んでいる高台の光景を目の当たりにしました。復興計画にもとづいて、堤防、住宅、道路や公園が早期に整備されることが願われます。



決壊したままの防潮堤に声を失う



震災2年後も更地が広がるばかりの海沿い



達成工事中の高台、移転できるのはまだ先



村で初の災害公営住宅(門前小路第1団地)

児童クラブは、いつもよりも多い15名ほどの子どもがいて盛況でした。中学生のいる親が、下の子を預けて体育祭に出かけたためでしょうか。ともあれ、大学生ボランティアは格好の遊び相手として大人気でした（帰りのバスで「肩と首が痛い」という学生が続出）。



女子大生ボランティアも肩車をせがまれる



秘密の小部屋での語らい(?)

伝承遊びは、午後になって、野田村の地元で伝承遊びを教えている方がご来場。新岡さんと双方の遊び方の情報を交換しました。新岡さんいわく「午後は1から10まで出せた」とのこと。地元の一般参加者は少なかったものの、関心ある人がいらして何よりでした。震災後に野田村に戻った方で、お茶を飲みながら以前のお話を伺うこともできました。



野田村と弘前市の伝承遊びの伝承



お手玉と竹かえし（現在は希少とのこと）

以上、たくさんの子どものと接し、ボランティアも童心に戻って楽しめた一日でした。

(担当：飯考行)